

環境芸術学会 2022 年度春季研究発表大会プログラム

開催日時: 2022年5月15日(日) 10:30~16:20 (10:00より入室できます)

実施方法: 遠隔会議システム「Zoom」を活用した口頭発表

聴講参加: 【無料】

申し込み: 以下のアドレスにアクセスし申し込みをお願いします(4月19日(火)10:00~5月15日(日)9:00まで)。

URL <https://iead2022spring.peatix.com>

※当日は Zoom の名前を本名に設定して下さい。

発表プログラム

学生会員の部

1, 鑑賞者や環境により変化する工学技術を用いた芸術表現

斎藤 陽(新潟大学大学院自然科学研究科)

筆者が魅力的に感じる自然の中のランダム性を表現する方法として外部の信号を用いた表現作品について論じた芸術表現の実践研究である。本発表は3つの実践の紹介をさせていただく。

2, 音楽の視覚的表現の可能性

聴覚障がい者、健聴者へ新しい音楽の楽しみ方の提案

齊藤 亜間(新潟大学大学院自然科学研究科)

「音楽の視覚的表現の可能性」というテーマで、ビジュアルプログラミング環境である max/msp/jitter を用い、リアルタイムでの音から映像表現を行うプログラムの作成を行う。大きく「音の解析」「映像表現」工程に分けられ、現在は「音の解析」を軸に作成を進めている。また、音から色に変換するプログラムの作成も行った。

3, 人の動きをとらえて変化する芸術作品の制作と研究

伊藤 雄生(新潟大学大学院自然科学研究科)

鑑賞者が直感的に操作できることを目標に、人の動作に反応する芸術作品を製作した。製作、展示を通して、センサ等の工学技術を用いた作品に対する鑑賞者のふるまいや、特定の形状を持つアフォーダンスを観察できた。発表では2つの作品のコンセプトや、鑑賞者の反応から見えてくる改善点を報告する。

一般会員の部

4, タイム軸・デザインから見る間伐材を用いた立木彫刻の価値

松尾ほなみによる間伐材を用いた《立木彫刻作品群》の意義と特性

小佐原 孝幸(常磐大学人間科学部 コミュニケーション学科)

時間軸を伴って受容形態が変化する松尾ほなみの《立木彫刻作品群》を、タイム軸デザイン観点を用いて分析・評価した。

5, 障害者用クーゲルバンの研究

ピンポンだまコロコロ

城井 光広(駿河台大学)

様々なビー玉転がしを制作してきたが、今回は障害者向けの作品を、外部からの依頼を受け、その限られた条件の中で制作を進めた経過について発表を行う。昨年、私の作品で遊んだ特別支援学校の講師の方から障害者が遊べる作品を作れないかと要望を頂き、障害者の遊具環境の一助となればと試作を始めた。

6, 環境芸術とパッシブデザインのめぐり逢い -パッシブアート-

建築環境工学におけるサステナビリティの概念と、近年の環境芸術における諸活動との相似。

奥田 祥吾(S.O.A.O)

近年において手がけた環境芸術活動と作品の傾向を、建築環境工学におけるパッシブデザインの手法を踏まえながら考察していきます。サステナビリティの概念との相似、そしてパッシブアートとしての今後の期待と展望を発表いたします。

7, 「KYOTO駅ナカアートプロジェクト」での取り組み

地下鉄・柳辻駅における事例について

河野 良平(京都橘大学)

「KYOTO駅ナカアートプロジェクト」は京都市内にある芸術・デザイン系の12の大学と短期大学、京都市交通局と協賛企業が連携・協力して地下鉄の駅をより魅力的な空間とし、地下鉄を活性化させるプロジェクトである。本学からは2回生河野ゼミが参加し、駅構内の壁面にマスキングテープなどを用いて制作した作品を設置した。

8, さいたま市における「アーツ・カウンシル」の取り組みについて

石上 城行(埼玉大学)

さいたま市では「文化芸術都市創造条例(2012年施行)」に伴う計画に基づいて様々な事業を行ってきた。市は現在、次の段階として「アーツカウンシルさいたま」の創設に取り組んでいる。本発表ではさいたま市で行われている試みを起点として、現在日本各地で起こっている新たな芸術文化政策を概観し、現状と課題を明らかにしていく。

9, 展覧会「Outer Edge/知覚の外縁」の制作報告

残余空間への視点

船山 哲郎(秋田公立美術大学)、宮本 一行(札幌大谷大学)

筆者らは、綿密なフィールドリサーチを経て、2021年2月から5月にかけて、人間の知覚とその外縁に着目した展覧会を開催した。本展覧会に至るまでのプロセスを振り返り、本制作において重要な要素である残余空間への視点から、作品について考察した結果を報告する。

10, ノグチの日系コミュニティへの眼差し

:ノグチプラザと「一世」を通して

曾根 博美(秋田公立美術大学)

イサム・ノグチのノグチプラザは彼の出身地ロサンゼルスのために制作された唯一の公共作品である。プラザ制作時のノグチについてのインタビュー及び日米開戦直後、日系人収容所に自ら収容されて制作したコミュニティセンター・プランとの比較を通じて、ノグチの日系アメリカ人コミュニティ観をその変化を含めて探る。

11, 「たらしめことば」の未来可能性

コンジョイント分析による他出した血縁者の価値観調査

三村 豊(総合地球環境学研究所)

これまでの研究活動では、記憶の継承とinclusive wellnessにおける文化芸術の創出の試みとして、高知県長岡郡大豊町怒田集落でワークショップを実施してきた。本研究では、2018年に実施したワークショップの成果をもとにCDを作成し、その後、CDを同封したアンケート調査を通じて、集落の継承や改善について考察する。

12, 共振する躯体

—「流れ橋」との身体的対話から生成される環境芸術—

宮本 一行(札幌大谷大学)

本発表は、京都府八幡市にて実施されたAIR事業「京都・Re-Search」及び、展覧会「ALTERNATIVE KYOTO」において、筆者が取り組んだ一連のインスタレーション作品に関する実践報告である。リサーチ対象とした上津屋橋での実践調査をはじめ、インスタレーション作品の制作手法をまとめるとともに、環境を捉える身体の一つのあり方について報告する。